

シクラメンの高温対策技術の普及

農業技術センター横浜川崎地区事務所 実施期間：令和6～7年

課題・目的

- 夏期に異常な高温が続くことが多く、開花が著しく遅れたり、品質を低下させる原因となっている。
- ヒートポンプによる夜冷は、活着促進のため8月下旬の仕上げ鉢への植替後のみ使用されることが多いが、成育停滞の原因である高温の夜温対策には、ヒートポンプの利活用の徹底が必要である。
- 開花遅れに対しては夏期の植物体内の硝酸態窒素濃度を300ppm以上に上げないことが重要であり、汁液診断技術の導入が必要である。

活動内容

■開花遅延を回避するため、出荷時期に開花する花芽ができる8月中旬頃からヒートポンプを利用した夜温管理を徹底するようシクラメン生産者でヒートポンプを持っている生産者12経営体に対し、巡回検討会や個別巡回時に指導した。

汁液分析による肥培管理技術の普及するため、硝酸イオン試験紙を用いた簡易な方法による汁液分析について、巡回検討会や個別巡回で説明を行った。実施を希望する生産者に対しては実施方法について詳しく説明した。



適切な管理により、出荷時期に開花が揃ったほ場

具体的な成果

■ヒートポンプの活用徹底を指導した結果、夜冷対策の実施は前年度から5経営体増加し、9経営体で行われるようになった。ヒートポンプの利用により、開花の遅れが減り、年内出荷ができず廃棄したり、年明けに出荷することがほとんどなくなった。

■汁液分析による肥培管理は、2経営体が継続して実施した。労力(手間)の面から新たに取り組む経営体はいなかった。しかし、実施している経営体では、分析結果をもとにした肥培管理により、生育が安定した。